Plan news

プラン・ニュース［2014 Summer］No.96

キーパーソンに聞く

「男性の生きづらさ」

社会学者 山田昌弘さん

インド

暴力と早すぎる結婚の阻止に取り組む男の子たち

男の子にとっての ジェンダー平等とは？

男の子特集号

子どもと築く、未来のしくみ

Plan
プラン・ジャパン

発行：公益財団法人プラン・ジャパン

キーパーソンに聞く｜社会学者

山田昌弘さん

ジェンダーの考え方が固定化されていると、男性も「生きづらさ」を感じる。途上国では貧困の問題とあわせ、二重の差別をなくす取り組みは重要です

「パラサイトシングル」「希望格差社会」「婚活」などの鮮やかな言葉で、日本の社会や家族をとりまく問題を切り取り、提言を続けている中央大学文学部の山田昌弘教授。内閣府の男女共同参画会議・民間議員等を歴任し、※ジェンダーや男性学の分野でも活躍されています。今回は、「男性にとってのジェンダー問題」というテーマでお話を伺ってきました。

Profile

やまだ・まさひろ

中央大学文学部教授。東京大学文学部卒業。東京学芸大学教授を経て、2008 年より現職。専門は家族社会学・感情社会学・ジェンダー論。子ども・若者・夫婦・家族を取り巻く現状を多角的に解析して打開策を提言し続け、パラサイトシングル、婚活、格差社会などという言葉を作り出した社会学者。男女共同参画会議民間議員等の公職を歴任し、現在、男女共同参画会議専門委員、日本学術会議連携会員。

※ジェンダーとは、社会的・文化的に決定される男女の規範

――プランは、Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンを通して、男性も女性も生きやすい世界の実現に取り組んでいます。山田教授は、「男性の生きづらさ」ということを指摘されていますね。

山田教授（以下敬称略） 日本における男性の生きづらさは、「生き方の選択肢がない」ことだと考えています。「仕事ができない男性は、女性にモテない、結婚できない」という傾向があります。仕事ができる男性は、すごく生きやすい。一方、仕事ができない男性はすごく生きづらいわけです。

30年前まではほとんどの男性が正社員として雇用されていたので、その差が目立たなかったわけですが、経済状況が変わって収入の格差が広がり、男性の生きづらさが目立ってきたという状況です。

――女性のほうが生き方に選択肢が少ないと考えられてきたように思いますが…。

山田 男性には職業といったこまかい選択肢はあるけれども、「稼がなくてはいけない」という点では、ほかに選択肢がないと言えます。昔からずーっとそうですし、子どものころから育ってくる過程でも、無意識にそう植えつけられます。日本は、そういった「男性の役割は稼ぐこと」というジェンダーの考え方が変わらない中で、大状況すなわち社会経済状況が変わってしまったんですね。

――男性が稼がなくてはいけないという点は、途上国も似ています。プランは女の子の経済的自立を後押ししていますが、日本の女性の意識についてはいかがでしょうか？

山田 日本で意識調査をしたところ、収入のある女性でも「収入の高い男性のほうがいい」という人がほとんどで、「収入が低くて可愛い男性が好き」という女性は増えていません。

女性の意識、というよりも、感情がそうなっているんですね。やさしいけれど頼りない球拾いと、たくましいエーススストライカーの2人の男性がいれば、いまの日本は100人の女性のうち100人がエーススストライカーを好きになる。そのうち10人でも「可愛い球拾いがいい」という女性が出てこない限り、変わらないでしょう。

ところが、欧米を見ていると、いわゆる経済力で男性を選ぶ女性が少なくなってきた。欧米では女性が男性に頼らないので、収入が多くていばっているような男性よりも、自分が稼ぐから収入が低くてもやさしい男性を…というふうに変わってきています。

――女性が経済的に自立できるかどうかも影響するのでしょうか？

山田 少なくとも経済的に自立しているほうがいいですよね。

実は、日本では、経済的に自立できる独身女性が減っています。男性の非正規雇用も増えていますが、女性も派遣社員やアルバイト、フリーターが増えていて、「やさしいけれど収入が低い男性を選びなさい」とは言いにくい状況です。

――日本でジェンダー不平等を感じることは少なくなってきているという印象ですが。

山田 ジェンダー不平等を感じるかどうかは、男性と女性で構造が違うので、数の問題と言うよりも質の問題があります。

女性の場合は、仕事で自己実現しながらも幸せな家庭や子どもを持ちたいという人たちが、生きづらさを感じています。日本の正社員のキャリアというのは、専業主婦の存在を前提としているので、女性がキャリアを追求していくと家族がおろそかになるし、家族の幸せを追求していくとキャリアが犠牲になる。

男性は、全部を持てる男性と、全部を持てない男性とに分かれるという構造があり、女性は全部持とうとするとたいへんで、どちらかをあきらめればラクになるという構造。男女によって生きづらさの構造が違うというのが、日本の特徴です。

――プランは、途上国でもジェンダー問題に取り組んでいます。

山田 プランが支援している途上国では、むしろ貧困に生まれてしまったことによる格差のほうが大きい。だから、途上国のジェンダー問題を考える際は、中流以上のジェンダー平等ではなくて、貧困層のジェンダー平等を重点的に考えなければならないと思います。

貧困で、さらに女性であるということで、二重に差別されている状況が、途上国にはありますからね。せめて「一重」にすることは必要です。そういう意味でも、貧困層でジェンダー平等に取り組むBIAAGの活動は、評価されるものです。

――経済の自立とジェンダー平等、その両方を実現しないと、プランが目指す、男女ともに多様な生き方ができる社会にはならないということでしょうか？

山田 そうですね。先進国ではそうなると思います。

途上国の貧困層では、男性も女性も最低限の生きる権利が奪われている状況なので貧困の問題が大きいですが、「男性は女性を暴力的に支配してはいけない」というのは最低限の倫理ですから、子どものうちからジェンダー平等の教育をすることは重要だと思います。

女の子への差別の背景調査に男の子たちも参加

国連で、東京で、日本各地で プランの活動をアピール！

前回の「プラン・ニュース」をお届けしたあとに行われた
プランの世界と日本の活動をピックアップしてご紹介。
さまざまな団体・機関と連携し、
進めている活動の“今”をお伝えします。

当日会場に飾られた「女の子と災害」のパネル

3月2・5日 「災害時の支援フォーラム」を２カ所で開催。世界各地での緊急・復興支援の経験と学びについて語り合いました

プラン・ジャパンは、３月２日に名古屋、３月５日に仙台で、災害時の復興支援と心のケアを考えるフォーラムを開催しました。両フォーラムには、世界各地の大規模災害の復興過程を研究しているダニエル・アルドリッチ氏（アメリカ・パデュー大学准教授）を招へい。同氏は、地域に暮らす人と人、人とさまざまな機関とのつながりが復興・防災に効果的であることを実証し、ソーシャル・キャピタル（市民力）の重要性を説きました。大規模地震への備えが課題である名古屋では、東日本大震災以降プラン・ジャパンと心のケア支援を行っているケア宮城メンバーとがシンポジウムを行い、支援活動から得られたことを話し合いました。いまだ復興過程にある仙台では、せんだい・みやぎ NPO センターと共催し、センター理事の司会のもと、ソーシャル・ビジネスやまちづくり計画に取り組む団体の代表が登壇。さまざまな立ち位置から復興に関わり続ける登壇者の話に、来場者からの共感が寄せられました。

プラン・ジャパンからは元東日本大震災支援対策室長の膳職員が活動事例を紹介

仙台フォーラムのシンポジウムの登壇者

世界と日本における プランの主な活動記録

2014 年 3 月～

3月2・5日 災害時の支援フォーラムを開催。
2日・名古屋「心のケア支援フォーラム」
5日・仙台「災害復興フォーラム」

3月8日 国際女性の日（International Women's Day）

3月10日 第 58 回国連「女性の地位委員会」にプランの女の子がマラウイとパキスタンから参加。

3月24日 ジアウディン・ユスフザイ氏（マララさんの父親）がカナダ・トロントの小学校を訪問。

マララさんの父、ユスフザイ氏が、カナダを訪問中にプラン・カナダ事務局長とともにトロントの小学校を訪問。ジェンダー平等についての意識啓発を行いました。

4月19日 「Girl Rising ～私が決める、私の未来～」札幌で上映会を開催。

4月19・20日 「アースデイ東京 2014」の NGO コーナーにブース設置。来場者にプランの活動を紹介。

4月27日 地元商店街主催の「三軒茶屋まち道楽」に初参加。国際 NGO プランの活動をアピール。

「三軒茶屋まち道楽」は三軒茶屋の地元の有志で始めたプロジェクト。年４～５回、太子堂商店街脇の緑道で、マルシェやフリーマーケットなどのイベントを開催。プラン・ジャパンは同じ町で活動する国際 NGO としてブースを出展しました。

5月17日～6月29日 「Girl Rising ～私が決める、私の未来～」上映会開催。
5月17日　札幌
6月8日　岡山
6月11日　東京
6月29日　名古屋

参加した４人の女の子たち

3月10日 パキスタン・マラウイの女の子代表が、国連で提言を行いました

３月８日の「国際女性の日」に合わせて開かれる国連「女性の地位委員会」。第 58 回にあたる今年も、３月 10 日～21 日までニューヨークの国連本部にて開催。プランは、パキスタンとマラウイの女の子４人とともに参加。パキスタンの女の子は、ポスト MDGs※ に向け、ジェンダー平等とともに、女の子への質の高い教育と暴力からの解放を訴えました。18 歳のフマイラさん「私はパキスタンの僻地の、最も貧しい地域から来ました。最近は洪水の被害にもあっている地域です。パキスタンの女の子が直面しているジェンダーの不平等の問題を解決するために、教育の平等、女性の雇用の創出、暴力からの保護の３つを提言します」。マラウイの女の子は、早すぎる結婚についての分科会にマラウイのジェンダー・子ども・福祉担当大臣とともに参加し、スピーチしました。15 歳のジャクリーンさん「私の住む地域では、早すぎる結婚が大きな問題です。16 歳で結婚を強いられた友人は、出産のために命を落としました。早すぎる結婚をやめさせるには、法的な執行力を用いることと、両親への教育が必要です。女の子自身がこの問題に声をあげられるように励ますことも重要です」

※ 2015 年以降、世界各国で取り組む国際開発目標

BIAAG キャンペーンのピンクに染まったブース

4月19・20日 「アースデイ東京 2014」でプランの活動をアピール

４月 22 日の地球について考え行動する日「アースデイ」に合わせ、東京・代々木公園を会場に開催される「アースデイ東京」。1970 年にアメリカで始まった「アースデイ」のイベントは、だれもが自由にその人の方法で、地球環境を守る意思表示をする国際連帯行動で、東京では 2001 年から開催されています。今年は４月19日､20日に行われ､プラン･ジャパンは NGO コーナーにブース出展し、来場者にプランの活動を紹介しました。700 人以上の人たちが Because I am a Girl キャンペーンの Raise Your Hand のアクションに参加しました。

4月19日 「Girl Rising ～私が決める、私の未来～」の上映会を札幌で開催

支援者の会のメンバーが会場運営も担当

昨年の「第２回国際ガールズ・デー」で上映し、好評をいただいた映画「Girl Rising ～私が決める、私の未来～」。全国で上映会が続々と開催されています。4月19日には札幌で、プランの支援者の会「プラン・札幌の会」とプラン・ジャパン事務局との共催で開催。150 人以上の参加で満席となりました。

『Girl Rising』の上映を全国的なムーブメントに！

「プラン・札幌の会」代表　松澤聖子さん

昨年11月、事務局から「『Girl Rising』の上映を全国で始める」と聞き、予告編を見たところ、「これなら映画好きを呼べる！ NGO の映画という先入観なしに多くの方に見てもらえそう」と感じました。そこで事務局との共催で札幌での上映会を企画しました。

最大の難題は広報でした。私が交流しているチャイルド、プランの活動地域で会った子どもたち、『Girl Rising』に登場する女の子たちの顔を思い浮かべながら、いろいろな場所に足を運び、ペンだこを作り、大量のメールを送り、他団体のキャンペーンまで利用してチラシをまきました。その結果、多くの人が関心を寄せてくれ、事前申込みでキャンセル待ちが出るほどの反響でした。途上国の女の子たちのことやプランを知ってもらえる機会をつくることができ、うれしかったです。

150 人以上を集められたこと、上映会の翌日にアースデイ円山動物園での再上映のお誘いを受けたことは大きな手応えです。他の地域でもきっとできます。支援者の手で『Girl Rising』上映を全国的ムーブメントにできたら素敵です。

ジェンダー問題を解消するため 10代の若者たちが立ち上がった！

～プラン・インドの「チット・パット：1枚のコインの両サイド」～

ITビジネスなどでめざましい発展を遂げたインド。しかし一方で、古くからの慣習が根強く残り、女性たちへの暴力事件が世界的に報じられるなど、深刻なジェンダー問題を抱えています。今回は、ジェンダー問題を草の根レベルから解消することを目的に、10代の男の子と女の子が力を合わせて活動しているプラン・インドのプロジェクトについてご紹介します。

ゲームをしながら、ジェンダー格差について論議します

20～30年後のインド社会はどうなっているか考え中！

ロールプレイ劇でジェンダーのステレオタイプが明らかに?!

5日間のワークショップでジェンダー平等を集中学習

プラン・インドの「チット・パット～1枚のコインの両サイド」は、2008年にラージャスターン州とウッタラーカンド州でスタートしました。プロジェクトではまず、5年間にわたって各地でワークショップを実施。ジェンダーに関してある程度の知識を持ち、地元の学校やコミュニティではリーダー的存在となっているティーンエージャーたちが選ばれ、ジェンダー平等についてじっくりと学習しました。

5日間のカリキュラムから成るワークショップは、男女混合のグループで実施されます。このことは、女の子たちが自信を持つためにも重要ですが、それ以上に、男の子たちが女の子の立場を知り、ジェンダー格差を実感するのに役立ちます。

最初の2日間では、クイズ形式やロールプレイなどを駆使したアクティビティを行い、たとえば「女の子はサッカーをしない」「男の子は裁縫が嫌い」といった、自分たちの中にあるジェンダーに対する思い込みを認識。次の2日間では、たとえば「人間ピラミッドを作って、天井に設置されている扇風機にタッチする」など、身体と頭を動かすアクティビティを通して、問題を解決する力、周囲と協力する方法、自分に自信を持つことなどを学んでいきます。そして最終日には、自分が親の世代となる20～30年後までにジェンダー平等を実現するため、いま、自分がどんな行動をとるべきなのかを考えます。

若き「エージェント」たちが社会問題を解決へと導く！

こうしてワークショップを修了し、ジェンダー問題を解決するための「エージェント」（主体者）となった若者たちは、自分が学んだことを家族、友人、地域の人々などにも積極的に伝えています。

また時には、女の子の早すぎる結婚や夫による家庭内暴力など、具体的な問題を解決するための行動を起こし、大きな成果をあげるケースも出てきています（左のコラム参照）。若者たちが身につけたジェンダー平等の意識がじわじわと広がり、インドの社会に大きな変革がもたらされる日も近いかもしれません。

ワークショップ参加者の声

● ラグヴェールさん／ウッタラーカンド州

ワークショップでジェンダーについてたくさんのことを学び、その後はアルコールを村から一掃する活動に参加しました。そのとき、アルコール中毒の人から脅迫されたりしましたが、警察の人が「暴力をふるう人を見つけたら、通報してくれればすぐに逮捕に向かいます」と言ってくれて、とても心強かった。これからも、少しでも多くの人にジェンダー平等について伝えていきたいと思います。

インド
India

インドでは現在「チット・パット」プロジェクトを実施するため、デリー首都圏と2つの州で合計165のユース（若者）クラブが活動しています。参加しているのは、12～18歳の約3,400人の若者たち。男女の内訳は、男性が約1,600人、女性が約1,800人です。

男の子たちがアクション開始！

ジェンダー格差は女の子を追いつめ、不安定な社会の一因になると気づいた男の子たち。さっそく地元で活動をスタートさせました。

ケース1
女の子の早すぎる結婚を阻止！

2013年11月、ある村に暮らす17歳の少女が学校を辞め、強制的に結婚させられることを知ったユースグループは、村の実力者で構成される議会「パンチャーヤト」にこの事実を報告。パンチャーヤトのメンバーが警察とともに少女の家を訪ね、「17歳の結婚はインドの法律違反なので、実行すれば逮捕されますよ」と警告した。少女は早すぎる結婚を免れ、現在も学校に通い続けている。

ケース2
家庭内暴力を引き起こす密造酒を撲滅！

2014年1月、ある村のユースグループがパンチャーヤトのもとを訪れ、「夫による家庭内暴力は、この村の重大な問題。その大きな原因は、密造酒で夫がアルコール中毒になっていることです」と訴えた。その後ユースグループのメンバーは、パンチャーヤトと地元警察の協力を得て密造酒作りを壊滅に追い込んだ。また家庭を訪問してアルコールの弊害について説き、最近では「村の治安がよくなってきた」と感謝され始めている。

村の実力者や警察も密造酒撲滅に協力！

プロジェクト担当者からひとこと
若者たちの熱意が社会を変えると信じています

チョウドハリ職員
● プラン・インド「チット・パット」プロジェクト担当

このプロジェクトは今後も大きな成果をあげ、インドの地域社会を変えてくれると信じています。「エージェント」となった若者たちが、パンチャーヤトの実力者たちと連携できている点も大きな強みですね。彼らの熱意が実を結び、インドの女性たちの地位が向上して、ジェンダー平等が実現することを望んでいます。

若者の雇用促進に必要なものとは？

いま世界では、新たな問題が静かに、そして確実に進行しています。若者たちの雇用・失業問題です。国連の定義では、若者とは15～24歳の男女を指しますが、近年、この年代の非雇用者数が特に増加しているのです。そこにはどのような背景があり、どのような対策が必要とされているのか、プラニーとともに学びましょう。

イラスト／西島尚美

Q1 世界の若者の雇用状況はどうなっているの？

国際労働機関（ILO）の調査によると、2013年の世界の若年失業率は12.6%（約7,340万人）。これは、25歳以上の成人失業率のおよそ2.7倍にも及びます。先進国では景気低迷の影響で、たとえ高等教育を受けていても、「経験がなく、能力が未熟」という理由でディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）に就けない若者が増えています。一方開発途上国には、世界の若者の約9割が暮らしていますが、その多くが失業しているか、劣悪な条件下で働かざるを得ない状況。貧困層に属する若者の数は、2億人とも3億人とも言われます。ILOはこのように能力や技術を活かせず、非生産的な仕事にしか就けない、もしくは職そのものが見つからない若者たちのことを「失われた世代」と呼び、警告を発しています。

国際会議で雇用の重要性を訴える若い女性

Q2 若者の失業が増えるとどんなことが起こるの？

2007年の「世界開発レポート」で、世界の人口の約半数が24歳以下であると報告されました。いま世界では、南アジアやアフリカを中心に「若年層の急激な増加現象」が起こっており、2015年には若年失業者数が9,500万人に達するとの予測も出ています。彼らは仕事やよりよい生活を求めて都市部に流入する傾向にあり、2030年までに世界人口の60%が都市部に集中するかもしれません。しかし実際に仕事がなければ貧困から抜け出せず、犯罪に手を染めたり、ギャングや武装集団の兵士といった反社会的勢力に加わったりする若者が増える危険性もあります。そうなれば治安も悪化して不安定な社会となり、経済的な成長は望めません。

インドでも若者の数が増加している

Q3 若者の雇用を促進するにはどうすればいい？

雇用促進に必要なのは、「教育」と「雇用の創出」です。しかし教育に関しては、先に述べたように、いい教育を受けてもそれに見合う仕事に就けない若者が増加。学校で学ぶのは理論ばかりで、仕事では何の役にも立たないとの意見も聞かれます。こうした状況を打破するためには、教育機関と雇用側が連携し、インターンシップや徒弟制度を活用するなどして、若者が知識と仕事に必要な実務能力を並行して習得できるようにすることが重要です。また開発途上国では、さまざまな努力によって初等教育の就学率が格段に上がっていますが、それが必ずしも雇用や貧困解消に結びついていないのが実情。「読み・書き・計算」という基本的なスキルに加え、雇用につながるスキルを高めていくことが重要であるとの認識が高まっています。

コンピュータは雇用につながるスキルの代表格

Q4 雇用につながるスキルってどんなもの？

「読み・書き・計算」の基礎スキルや、ミシンの使い方、農作物の育て方、コンピュータの使い方といった職業技術スキルも、もちろん雇用につながる非常に大切なスキルです。しかし近年、これらと同様に重要視されているのが、ライフスキル（生活技能）と呼ばれるもの。これは、人が生きていくために必要なスキルのことで、問題を解決する能力、物事を批判的に考える力、コミュニケーション能力、創造性、リーダーシップや誠実さ、共感する力、ストレスへの対処能力、健康やお金を管理するための知識などが含まれます。

裁縫について学ぶルワンダの若者

Q5 雇用の創出に必要な対策とは？

政策や経済構造が大きく関係する雇用の創出は、その課題の範囲が膨大で問題も複雑です。各国の政策や国際支援は小さな子どもや高齢者に向きがちで、若年層は対象から抜け落ちる傾向にあります。若者を対象に、急激に変化する労働市場とそこに求められるスキルを捉え職業訓練へ繋げる、起業を目指す若者たちへ金融教育を行うなど、仕事の選択肢を広げ、新たな雇用を生み出す政策が急がれます。また、ディーセント・ワークに就き、持続的な経済活動ができるよう、法を整備して労働基準と権利を促進することも重要です。

世界中の若者が支援を必要としている

Q6 プランはどのような支援活動をしているの？

プランは活動地域で、出生登録や質の高い教育の提供など、雇用に必要となる基本的な活動に力を注いでいます。そのうえで、地域の需要に合わせた職業訓練やライフスキル教育を行い、労働基本法や人権についての知識も伝えます。また、労働市場動向に関する情報提供や、小規模金融などを通じての起業支援など、働く機会を増やす取り組みも行っています。これらは、紛争や災害に見舞われた地域でも、安定した日常を取り戻すため、同様に行われています。

ローンを組んで自分の店を持ったパキスタンの男性

プランの支援は若者の雇用促進にも役立てられています！

プランに寄せられた寄付金は、支援対象国のさまざまな活動に使われていますが、その中には、若者の雇用促進プロジェクトも含まれています。たとえば昨年プランがかかわった活動には、次のようなものがあります。

エルサルバドル「若者対象の就業支援」

学校に通わず、仕事にも就いていない16歳～25歳の男女935人を対象に、就業支援を実施。キャリア形成、労働市場に関する情報提供、ライフスキル教育、実際の労働市場に適応するための技術トレーニングを行いました。参加者のうち210人が就職し、70人は自ら起業するための準備を始めています。若者が起業して成功すると、その職場にさらに若者が雇用されるという効果も期待できます。

ザンビア「若者対象の金融教育と小規模金融」

銀行とパートナーシップを組み、若者たちに貯蓄に関する知識やスキル、習慣を身につけてもらうための金融教育と、地域ベースの小規模金融プロジェクトを実施しています。過去3年間で1万2,696人の男女が参加。銀行の仕組みを学んで貸付を受けたり、貯金ができるようになったり、実際に商売を拡大し利益を上げたりといった効果が出ています。

インドネシア「若者対象の職業訓練と金融教育」

約400人の男女を対象に職業訓練を実施。その後、企業との就職相談会を開催し、137人が縫製、IT、流通といった業種で就職することができました。また、約4,000人の若者を対象に、金融教育や小規模金融支援も実施しています。訓練を受けた若者の就職先として、企業などの雇用主と密接な協力関係を結ぶことを重視しながら行っています。

※若者の雇用促進や人材育成に取り組むプランのプロジェクトは、「プラン・スポンサーシップ」へのご寄付でも支えられています。資料請求・お申し込みは以下まで。

www.plan-japan.org
TEL: 03-5481-6100

男の子と男性にとってジェンダー平等はどんな意味があるの？

今回は、プランが独自開発した教材「Planting Equality」から、男の子と男性にとってのジェンダー平等の意味を考えるアクティビティを紹介します。ジェンダー平等が男の子にもたらす恩恵は？　一緒に考えてみましょう。

気づきのための導入のクイズ

Let's Try

下記のクイズに「ホント」か「ウソ」で答えてください。

Q1 世界的に、男の子が生まれたほうが喜ばれる？

→ **世界的には男の子を好む傾向が強い**

男の子の誕生を好む程度は文化によって異なりますが、2005 年の国連報告書では、性別判定のうえでの堕胎と幼児殺害による「失われた」女の子の数は、世界で 2 億人にのぼると言われています。

ホント！

Q2 男性が女性に暴力をふるう原因は、アルコールの取り過ぎが最も一般的？

→ **アルコールの摂取は暴力を誘因するが、原因ではない**

女の子や女性に対する暴力は、男性と女性の力関係が対等ではないこと、暴力が社会的に容認されていることに起因します。男性が暴力をふるうようになる最も多い要因は、子ども時代に母親に対する暴力を見た体験です。

ウソ！

Q3 思春期の男の子たちは、男らしさとは「強さである」と信じやすい？

→ **アメリカでの調査で「男らしさは強さ」の結果が**

アメリカで行われた思春期の男性への全国調査では、男の子は真に男らしくあるために、「尊敬され、強く、問題について語らず、女性を支配しなくてはならない」と考えていることがわかりました。IMAGE という世界的な調査では、この考え方が世界的に蔓延しており、特に南アジアと中南米で顕著でした。

ホント！

Q4 若い男性と女性は同様に、リスクの高い性交渉に関わりやすい？

→ **若い男性のほうがリスクの高い性交渉に関わりやすい**

このことは、男性・女性双方にとって、HIV ／ AIDS やほかの性感染症などのリスクがあることを意味しており、若い女性の病気への可能性を高めています。

ウソ！

Q5 世界的には、5 歳から 14 歳までの男の子は女の子よりも児童労働を強いられる可能性が高い？

→ **男の子が従事する農林水産業の児童労働が多い**

国際労働機関（ILO）が 2010 年 5 月に発表したレポートによると、世界の児童労働の約 60%は農林水産業に集中。サービス業 26%、工業 7%と続きます。農業と工業ではそれぞれ男子が 62.8%、68.5%と多数を占めるため、児童労働に関わる可能性は、男の子のほうが高いと言えます。

ホント！

Q6 銃がからんだ殺人の 75%以上は、男性によって起きる？

→ **銃がからんだ殺人の 90%は男性によるもの**

男らしさについての考え方が、命を落とす危険性の高い行為につながっています。銃を使用した暴力のために人口の不均衡をもたらした国もあり、ブラジルでは、15 歳から 29 歳までの男性の人口は、女性よりも 20 万人少なくなっています。

ホント！

プランでは、男女のジェンダー平等を実現する目的で、Because I am a Girl（ＢＩＡＡＧ）キャンペーンに取り組んでいますが、「男の子の権利や機会平等はどうなのか？」という視点も大事にしています。生物学的な性の違いとは異なり、社会的・文化的に決定される男女の規範である「ジェンダー」には、男の子の立場から見た不平等や不利益という側面もあるからです。また、女の子のジェンダー不平等の問題を解決するためにも、男の子や男性がジェンダー平等に関心を持つことは不可欠です。

プランが独自に開発した「Planting Equality」という教材には、「男の子や男性の参加を促す」という章があります。その導入部分にあるクイズを、まずは一緒に考えてみましょう。「女の子より男の子が上」「男らしさは強さ」といったジェンダーに基づく意識が、世界的にまだまだ根強いことがわかります。また、銃による犯罪に巻き込まれやすかったり、児童労働に従事させられる率が高かったり、男の子であるがゆえにさらされる危険や不利益もあります。

支配的な男らしさがもたらす男の子の「代償」にも注目

続いて、「『支配的な男らしさ』がもたらす恩恵と代償」という図を見てみましょう。男らしさによって恩恵を受けるのは男の子や男性、その代償を払うのは女の子や女性ととらえがちですが、男の子や男性が払う代償もあります。特に、ジェンダーを背景にした男らしさ＝「支配的な男らしさ」という視点で見ると、「扶養しなければならないというプレッシャー」「男らしくないと男の子の間でいじめにあう」「家族や生活への関わりの欠如」といった代償が浮かび上がってきます。

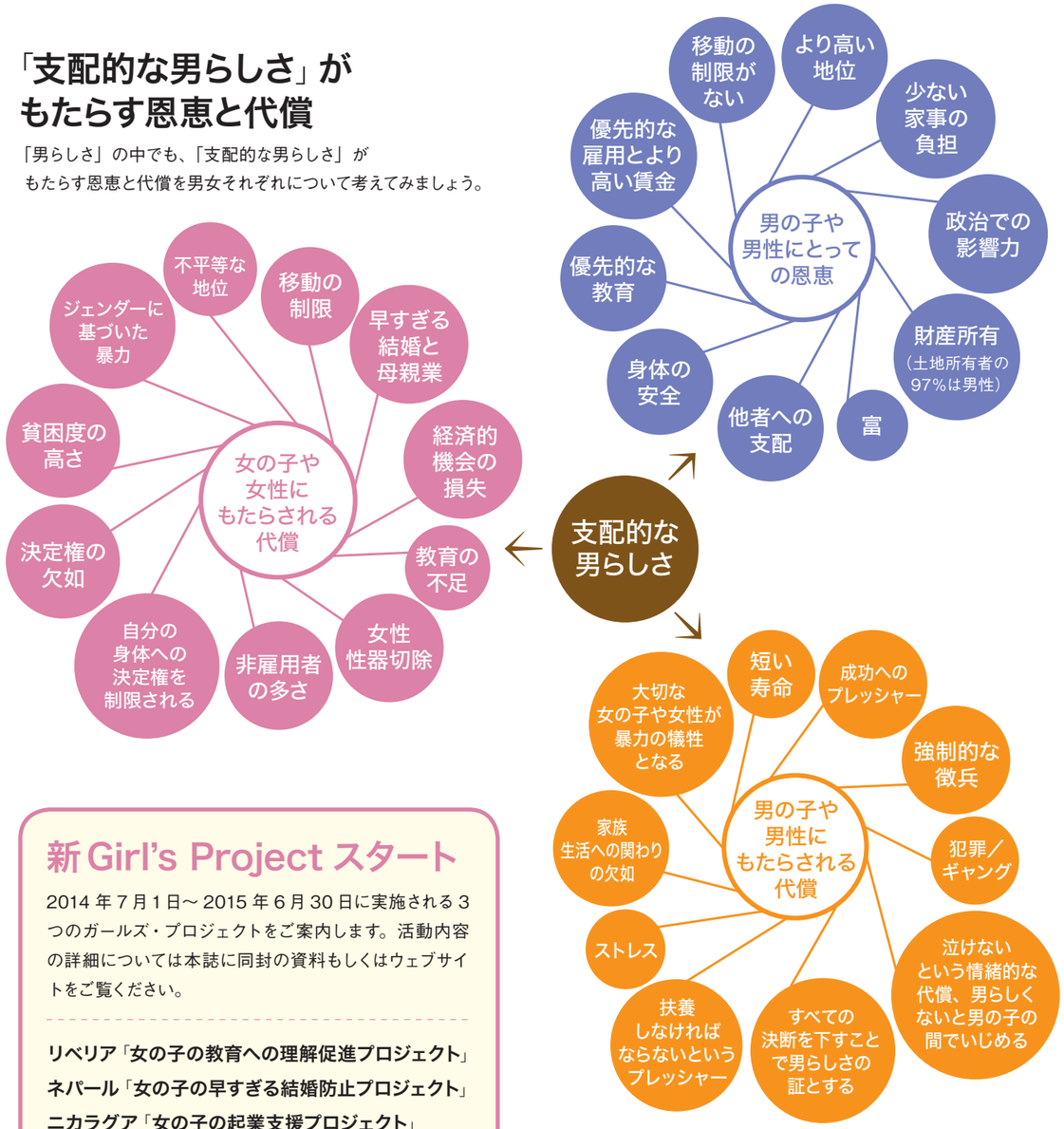
では、「ジェンダー平等」を実現したら、どうなるのでしょうか？

「Planting Equality」では、「ジェンダーの公正」がもたらす恩恵についてもワークを行います。男の子や男性が受ける恩恵としては、「充実した家庭生活」「決定することへのストレスの減少」「ほかの男の子や男性との健全な関係」「パートナーが収入を得て経済的な判断を下すようになると、男の子や男性も利益を受ける」、女の子や女性が受ける恩恵としては「誰と結婚して、何人の子どもを産むか選べる」「対等な意思決定権」「経済への対等な参加」「家事や家庭生活での平等な役割分担」などがあげられます。男の子も女の子もともに、プレッシャーにさらされることも、自由を制限されることもない社会になるのです。

ＢＩＡＡＧキャンペーンがめざす「ジェンダー平等」を実現する社会は、男の子も女の子もハッピーになれる社会。男の子と男性に、「ジェンダー平等」にもっと関心を持ってもらえるように働きかけることも、このキャンペーンの重要な活動の一つです。

「支配的な男らしさ」がもたらす恩恵と代償

「男らしさ」の中でも、「支配的な男らしさ」がもたらす恩恵と代償を男女それぞれについて考えてみましょう。



出典「Planting Equality Component 7,Plan International」

新 Girl's Project スタート

2014 年 7 月 1 日～ 2015 年 6 月 30 日に実施される 3 つのガールズ・プロジェクトをご案内します。活動内容の詳細については本誌に同封の資料もしくはウェブサイトをご覧ください。

リベリア「女の子の教育への理解促進プロジェクト」
ネパール「女の子の早すぎる結婚防止プロジェクト」
ニカラグア「女の子の起業支援プロジェクト」

www.plan-japan.org/girl/

企業 × プラン・ジャパン
コーポレート・パートナーシップ Vol. 6

ソーシャルビジネスをはじめ 連携の形はさらに広がりを見せています

企業と連携して、プランの活動にご支援いただくコーポレート・パートナーシップ。
最近では、連携の形もさまざまに広がっています。
多くの団体・機関と連携するソーシャルビジネスへの取り組みについてご紹介します。

CASE 1 味の素株式会社

さまざまな団体・機関との連携をもとにソーシャルビジネスの成功モデルを目指す。

味の素株式会社は、2009年からソーシャルビジネスとして「ガーナ栄養改善プロジェクト」に取り組んでいます。研究開発企画部専任部長の取出恭彦さんにお話を伺いました。

栄養効果の試験は、コミュニティのチーフとの信頼関係が鍵に

取出さん このプロジェクトは、創業100周年の記念事業として2009年にスタートしました。継続してできる取り組みにしようと、当時、注目され始めたソーシャルビジネスに着目。「食を通じて世界の人の健康に貢献しよう」という味の素のモットーにそって、途上国の栄養改善への貢献をテーマにしました。

――ガーナを活動地域に選ばれた理由はなんですか？

取出さん ソーシャルビジネスとして展開していくには、政府や国連機関、国際NGOなどさまざまな機関との連携が不可欠です。そのような機関が活発に活動していて、政治的にも比較的安定しているということで、ガーナを選びました。

最初の2年は調査にあてて、生後6カ月から24カ月の子どもをターゲットに、低身長の問題にも関わる離乳期の栄養改善に取り組むことにしました。ガーナの離乳食は「kokko」というおかゆですが、その栄養素を補うサプリメント「KOKO Plus」をガーナ大学等と連携して開発しました。

現在は、その栄養効果の確認試験をプランと連携して行い、流通モデルの試験を別の団体と連携して進めています。2014年末までにその効果測定を完了し、来年からはさらにビジネスとして展開できるかどうかの検討を始める予定です。

――プランとの連携はどういったものですか？

取出さん プランと連携している栄養効果の試験というのは、非常に難しいもので、1年間、サプリメントを子どもに食べさせてもらい、定期的に聞き取りや採血に協力してもらわなければなりません。それを300人×3つのグループで進めていますが、これはコミュニティとの長年の信頼関係があればこそ。プランをはじめ、パートナーの団体や機関には、そういった我々にないノウハウを提供していただいています。

実は、実証データに基づいた栄養改善効果の立証というのは、これまでにあまり例がないことなんです。「KOKO Plus」に含まれるアミノ酸が低身長を改善できることが立証されると、画期的なことなので、結果に期待しているところです。

――今後の活動について、お聞かせください。

取出さん ソーシャルビジネスに取り組む企業が増えていますが、いまは過渡期にあると感じます。多くの企業や機関が、どうブレークスルーするかを模索していて、その中でも、連携をベースとした展開に可能性を感じています。多くの団体・機関と連携して進めているこのプロジェクトを、一つの成功モデルにしていきたいと考えています。

大豆を原料にしたサプリメント「KOKO Plus」。ガーナ料理をもとに、現地の人が美味しいと感じるものを目指して開発

写真提供：味の素株式会社

CASE 2 株式会社ディノス・セシール

クイズに答えて割引特典をゲット お買い物の一部が寄付に

途上国の女の子の問題を考えるクイズで楽しみながら、BIAAGキャンペーンに参加できる仕組みです。

これまでにも女性と子どもの支援に取り組んできた株式会社ディノス・セシールでは、2014年5月よりセシールオンラインショップ内で、全問正解すると寄付つき値引きポイントがもらえる「せし・ハピクイズ」を開始。特典を利用したお買い物に応じて、Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーン対象プロジェクトに寄付がされます。オンラインショップを利用される方々に、クイズを通して楽しみながら、途上国の女の子たちの直面している問題について関心を深めてもらう企画です。10月には、国際ガールズ・デーにあわせて、お客様のお買い物に応じて一定額が寄付になるキャンペーンも実施される予定です。

もっと楽しめる！
プラン・スポンサーシップ Vol. 5

Q チャイルドは一度も手紙を自分で書いてきません。返事を楽しみに待っているのに…

チャイルドがまだ幼くて自分で手紙が書けない場合は、親や家族が代筆したり、コミュニティ・ボランティアが口述筆記をしています。長い目で見守っていただくようにお伝えしていますが、「何年たっても、自分で返事を書いてくれない」という声をいただくこともあります。日本では、ある程度の年齢になれば手紙も書けるようになるので、不思議に思われるのかもしれません。

プランの活動地域では、教育の機会や質に問題があるところも多く、初等教育を終えても、読み書きが不十分だったり、自分の気持ちをうまく文章で表現できない場合もあります。そもそも手紙をやりとりする習慣がない地域もあり、手紙に対する感じ方は、国や地域の文化によっても差があります。文章のかわりに絵を描いてくるチャイルドもいれば、上手な手紙でないと喜ばれないと考えるチャイルドもいます。

自分で返事を書かないからといって、手紙を待っていないわけではありません。コミュニティ訪問をしたスポンサーが、チャイルドの家に大事に飾られた自分の手紙を見て、いかに心待ちにしているかを知った、というエピソードもあります。チャイルドにとって、スポンサーからの手紙は、世界を広げてくれるきっかけの一つです。具体的な質問をしてみたり、絵を描いてきたらその感想を送ったり、そのひとつひとつが大きな励ましになっています。

スポンサーへ返事を書くチャイルド

手紙の文化の違いが背景にあることも。返事が書けなくても、チャイルドは手紙を心待ちにしています

スポンサーの疑問を解決！ 気になることQ&A 1

今号から、スポンサーシップの活動についてのちょっとした疑問にお答えするプチ連載が始まりました。第1回は、「チャイルドのお手紙」について。お問い合わせの多い質問をまとめてみました。

お手紙についての関連 Q&A

チャイルドにお手紙が届くまでにどれくらいの時間がかかりますか？

日本語のお手紙で約3カ月が目安

事務手続きや発送、翻訳などに時間がかかりますので、返事が届くのは半年後を目安にお考えください。英語のお手紙の場合は、1カ月ほど早く届きます。現地では、ボランティア・スタッフが一通ずつ手配りで届けているので、私たちが想像する以上に時間がかかります。年2～3回を目安にお送りいただくことをおすすめしています。

チャイルドに贈るギフトに50gという制限があるのはなぜですか？

ギフトは「添える気持ち」と考えて

受入国での関税の発生を防ぎ、輸送コストを下げるためにも、重量50g以内／価格500円以内／平らなもの（しおり、シール、リボンなど）という制限内でお願いしています。コミュニティの子どもたちの間でギフトをめぐる不公平感が生じないようにするためにも、ギフトは手紙に「添える気持ち」だとお考えください。

チャイルドに直接、手紙を送れないのはなぜですか？

住所がなく、郵便が届かないことも多い

プランが活動する地域では、コミュニティに住所がないことも少なくありません。郵便サービスが整備されておらず、直接チャイルド宛てに送っても届かないことが多いため、コミュニティ・ボランティアが一軒一軒を訪ね届けています。また、スポンサー個人の連絡先がわかるとチャイルドの家族や親戚からさまざまな要求が寄せられるなど、トラブルの原因になる可能性もあります。

日本からの手紙を読むブルキナファソのチャイルド

スポンサーシップについてのQ&Aは、ウェブサイトの「よくある質問」コーナーにも掲載しています

お手紙やギフトなどについてのご質問は、「チャイルドとの交流について」の項目にまとめています。ぜひご活用ください。

http://www.plan-japan.org/faq/sponsor/

Information* お知らせ

「一年の歩み」が新しくなります！

スポンサーの皆さまにお届けしている、チャイルドや地域の最新情報を伝える「一年の歩み」。この秋から、より親しみやすく読みやすい紙面作りを目指し、レイアウトを一新します。言語も日本語のみとなります。次のお届けをどうぞお楽しみに！

日本語のみですっきり見やすくなります！

「プラン・ジャパン 夏休み読書感想文コンクール 2014 ～読んで世界に近づこう!」作品募集

プラン・ジャパンでは、中学生と高校生を対象に、第１回読書感想文コンクールを開催します。課題図書は、「Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーン」に関連した本です。途上国の女の子の課題とパワーを知り、自分に何ができるかを考える企画に、多くの中高生のご参加をお待ちしています。このコンクールについて、ご家族、知人、学校の先生などにもぜひお知らせください。多くの中高生からのご応募をお待ちしています！
※詳細はウェブサイトをご覧ください。
【募集期間】
2014年６月20日（金）～９月３日（水）

夏休みに、読書しながら世界の女の子のことを考えてみよう

【内容】
プラン・ジャパンが選定した課題図書（ウェブサイト参照）の中から１冊を選び、中学生は400字詰め原稿用紙３枚以内、高校生は同４枚以内で感想文を執筆してください。課題図書は、『Because I am a Girl わたしは女の子だから』（英治出版）、『わたしはマララ　教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女』（学研パブリッシング）などです。
【審査員長】
角田光代氏（直木賞作家／プラン・ジャパン支援者）
【入賞発表】
入賞者（中高生各３人）は、第３回国際ガールズ・デー（2014年10月11日）に発表。角田審査員長の講評とともに表彰します。また、プラン・ジャパンのウェブサイト等にも掲載します。
【賞品】
BIAAGに関連する書籍やグッズ
【応募方法】
ウェブサイト（www.plan-japan.org）より応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、作品と一緒に下記まで郵送してください。
【お問い合わせ・送付先】
〒154-8545　東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22　サンタワーズセンタービル11階（公財）プラン・ジャパン　コミュニケーション部「夏休み読書感想文コンクール2014」係　TEL：03-5481-0030
Mail：education@plan-japan.org

開発教育の教材・資料をご活用ください！

高校生などユースを対象とした資料「世界を変える若者のチカラ～国際NGOプランの活動現場から～」が完成しました。世界の子どもの現状についての解説や、考えを深めるためのミニ・ワークショップが掲載されています。また、指導者向けBecause I am a Girl教材「女の子にはチカラがある～未来を創るジェンダー教育～」も頒布しています（1部100円）。学校等でぜひご活用ください。
【お問い合わせ・お申し込み先】
コミュニケーション部　ライブラリー担当
TEL：03-5481-0030
Mail：library@plan-japan.org

「世界を変える若者のチカラ～国際NGOプランの活動現場から～」

「女の子にはチカラがある～未来を創るジェンダー教育～」

第３回「国際ガールズ・デー」イベントに参加しませんか？

10月11日（土）は第３回「国際ガールズ・デー」です。ガールズ・デー・イブには、ガールをテーマにした長編映画のプレミアム上映会を開催。また、ガールズ・デー当日には、プランの活動地域から招へいするガールを囲んだイベントを企画中です。詳細は決まり次第ウェブサイトに掲載しますので、どうぞご期待ください。
【プラン主催イベントの予定】
（日時や内容は変更の可能性があります）
10月10日（金）　プレミアム映像上映会（上映作品は後日発表）／会場：東京都内
10月11日（土）　国際ガールズ・デー・イベント／場所：東京都内
【お問い合わせ先】
コミュニケーション部　イベント担当
TEL：03-5481-0030
Mail：event@plan-japan.org

昨年の国際ガールズ・デー・イベントの様子
（撮影：金井塚太郎）

Message board* 伝言板　各地の支援者の会からの伝言板

プラン広島の会「お手紙書き会」f

- 日時：７月19日（土）、８月23日（土）、９月20日（土）、10月18日（土）、11月15日（土）　14:00～16:00
- 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ フリースペース2Fまたは3F（広島市中区袋町6-36）
- 内容：チャイルドへの手紙書き。チャイルドと交流されていない場合でも大丈夫。プラン広島の会が交流しているチャイルドへ一緒にお手紙を書きましょう。
- 参加費：無料、申込不要
- 連絡先：小村
  Mail：naokomura@kej.biglobe.ne.jp

映画『Girl Rising ～私が決める、私の未来～』上映会
（共催：盛岡の会）

- 日時：８月２日（土）　13：30～15：30
- 会場：盛岡劇場・河南公民館　メインホール（盛岡市松尾町3-1）
- 内容：プラン盛岡の会が共催する上映会です。映画を観て、途上国の女の子の現状を一緒に考えませんか？　プラン・ジャパン職員がBIAAGキャンペーンの概要についても紹介します。下記までお申し込みください。
- 参加費：無料
- 定員：500名（定員になり次第締切）
- 連絡先：プラン・ジャパン
  イベント担当
  Mail：event@plan-japan.org
  TEL：03-5481-0030

プラン長岡近郊の会 プラン活動PRブース @長岡市市民活動フェスタ

- 日時：９月６日（土）11：00～16：00
- 会場：アオーレ長岡
- 内容：長岡市市民活動フェスタにPRブースを出展します。スタッフとしてご協力頂ける方を募集しています。
- 参加費：無料
- 連絡先：熊倉
  Mail：n-kumakura@nifty.com
  TEL：0258-39-8956

プラン奈良の会「チャイルドにカードを送ろう」W

- 日時：９月７日（日）
  13：00～16：00（予定）
- 会場：奈良県文化会館（予定）
- 内容：奈良の会で毎年恒例のカード作りです。なかなかチャイルドに手紙を出せていない方、一緒にカードを作ってチャイルドに送りましょう！　参加希望の方は下記へお申し込みください（会員の皆さまにはハガキ等で連絡します）。会場等は確定後、参加者の方にお知らせします。
- 参加費：カードの材料費（実費）
- 連絡先：富山
  Mail：j-tomy@kcn.ne.jp

プラン岡山の会「第15回手紙書き会」W

- 日時：９月７日（日）　13：00～16：00
- 会場：きらめきプラザ２階　大会議室２（岡山市北区南方2-13-1）
- 内容：やっと暑さが和らぐ９月。冬をイメージしながらチャイルドに手紙を書きましょう。
- 参加費：300円（ご家族、ご友人同伴の場合も１グループ300円）
- 連絡先：直江
  Mail：plaoka0625@yahoo.co.jp

プラン千葉「秋の例会」W

- 日時：10月５日（日）　13：15～16：00
- 会場：千葉市民会館
- 内容：お手紙書き会＆大使館の方によるブルキナファソのお話。９月30日（火）までに下記へお申し込みください。
- 定員：30名（先着順）
- 参加費：プラン千葉の会員は無料、非会員は500円
- 連絡先：前田
  Mail：e_maeda@yellow.plala.or.jp

プラン奈良の会「フィリピン料理教室」W

- 日時：11月16日（日）
  10：00～14：00（予定）
- 会場：たけまるホール（旧生駒市中央公民館）（予定）
- 内容：奈良の会恒例の料理教室です。今年は、初めてのフィリピン料理に挑戦です。どんなものが食べられるか、ぜひ楽しみにご参加ください。参加希望の方は、以下までお申し込みください（会員の皆さまにはハガキ等で連絡します）。会場等は確定後、参加者の方にお知らせします。
- 参加費：食材費（1,000円程度）
- 連絡先：富山
  Mail：j-tomy@kcn.ne.jp

Wウェブサイト fフェイスブック　左記アイコンのある会についてはプラン・ジャパンウェブサイトから各会のページにリンク
トップページ→支援者の方へ→プラン支援者の会 www.plan-japan.org/supporter/plankai/　※イベントの開催報告も掲載しています。ぜひご覧下さい。
※「プラン・ニュース」次号の発行は 11 月中旬の予定です。どうぞお楽しみに！

コミュニティ訪問レポート

カンボジア Cambodia

チャイルドがプランを卒業するまで できれば毎年訪問を 続けたいと思います！

２回目の訪問で撮影した２家族の集合写真！

学生時代、カンボジアでボランティア活動を経験し、
開発途上国支援に興味を持ったという本望翔太さん。
社会人1年目の 2012 年にプランのスポンサーとなり、
カンボジアの男の子と交流を始めました。
その後は２年連続でコミュニティを訪問。
２回目の訪問では、家族全員を引き連れて現地を訪れました。

学生時代にアメリカとスイスに留学したのがきっかけで、自分の知らない世界をもっと見てみたいと思うようになりました。それで次は開発途上国に滞在する方法を探していたところ、カンボジアでホームステイしながらボランティア活動をする機会に恵まれました。

たまたま行くことになったカンボジアですが、貧しくても心の豊かさを持ち、言葉がまったく通じない私のような外国人とも一生懸命コミュニケーションを取ろうとしてくれる現地の人たちに、大きな感銘を受けました。そこで社会人になってからカンボジア語を学び始め、同じ頃、プランのスポンサーにも登録しました。

チャイルドは、カンボジア西部のシェムリアップから車で 1 時間半ほどのコミュニティに暮らす、当時 11 歳のモウくん。明るくて成績優秀、手紙の字もとってもきれいな彼と活発に交流するようになりました。そして約 1 年後、1 回目のコミュニティ訪問に出かけました。最初はものすごく緊張していたモウくんでしたが、次第に打ち解けて、その場で 2 人の絵を描いてくれたことなどがいい思い出です。

それからまた約 1 年が過ぎた今年 3 月、2 回目の訪問をしてきました。今回は、私の両親と妹も一緒です。最初は私を「変わり者」扱いしていた家族ですが、次第に興味がわいてきたらしく、ついに「一緒に行く」と言い出したんです。

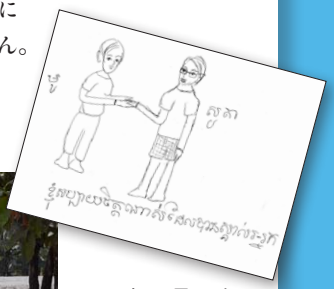
13 歳になったモウくんは、前回よりもさらに明るくなっていて、学校や家族のことなどいろいろな話を聞かせてくれました。モウくんは最近習い始めたカタコトの英語、私も勉強中のカンボジア語をちょっとだけ披露。私の家族も家の中を案内してもらったり、生活についての質問をしたりと積極的に交流していました。そして、おみやげに持参したおもちゃで遊んだり、珍しいフルーツをごちそうになったりしているうちに、あっという間に 2 時間が経過。「また来るからね」などとあいさつをして帰ってきました。

今回の旅には家族も大満足で、帰国後はなんと、父もプランのスポンサーに登録。チャイルドは、カンボジア北東部の村に暮らす女の子です。また、両親は英語の勉強も始めました。私はモウくんがプランを卒業するまで毎年訪問を続けようと考えているのですが、もしかして、来年からは家族揃って 2 カ所を訪れることになるかもしれません。

2013年

わずか1年で、モウくんはだいぶ大きくなりました！

2014年



2013 年の思い出の絵。2人の名前と「会えてうれしいです」と書いてある

公益財団法人プラン・ジャパン www.plan-japan.org
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル10F
TEL 03-5481-6100 FAX 03-5481-6200 service@plan-japan.org

Plan プラン・ジャパン